

## 生物科学学会連合 第2回定例会議 議事録

**日時**：2011年1月24日（月）14:00～16:00  
**場所**：東京大学山上会館 2階 201・202 会議室

**出席**：浅島 誠（生科連 2011-2012 代表・日本学術会議第二部部長・  
国際生物学オリンピック日本委員会委員長）

宮島 篤（生科連前代表）

入江 賢児（生科連前副代表）

谷口 直之（日本学術会議第二部基礎医学委員会委員長）

武田 洋幸（国際生物科学連合理事・日本発生生物学会）

鎌田 直人（個体群生態学会）

宮本 武典（日本味と匂学会）

岩崎 博史（日本遺伝学会）

山下 雅道（日本宇宙生物科学学会）

河田 光博（日本解剖学会）

大杉 美穂（日本細胞生物学会）

福田 裕穂（日本植物学会）

榊原 均（日本植物生理学会）

橋本 哲男（日本進化学会）

岡野 栄之（日本神経化学会）

入村 達郎（日本生化学会）

鳩貝 太郎（日本生物教育学会）

曾我部正博（日本生物物理学会）

小西 真人（日本生理学会）

後藤 祐児（日本蛋白質科学会）

長濱 嘉孝（日本動物学会）

真行寺千佳子（日本動物学会）

山本 和俊（日本比較内分泌学会）

石野 史敏（日本分子生物学会）

樗木 俊聡（日本免疫学会）

石井 邦雄（日本薬理学会）

（計 20 学会 26 名）

**欠席**：日本時間生物学会 日本神経科学学会

（計 2 学会）

中西 秀彦 山口 恵子（事務局）

（敬称略、学会名五十音順）

**議長**：浅島 誠

- ・本会議は 2010 年 6 月 7 日に発効した「生物科学学会連合の運営規約」第 3 条により開催された定例会議である。会員出席数および欠席委任状の数の合計が総会員数の 2/3 以上となったため、同規約第 10 条により、本会議における満場一致の議決事項については本連合の議決事項として採用される。
- ・本会議は本連合第 1 回連絡会議より通算して第 27 回目の全体会議に相当する。

### 議題・報告：

#### 1) 生物科学学会連合第 1 回定例会議議事録の承認

前回議事録案が確認され、承認された。

#### 2) 新入会学会について

日本蛋白質科学会の入会が正式に承認された。同学会の後藤氏より挨拶と学会紹介がなされた。

#### 3) 生物科学学会連合平成 22 年度会計報告

事務局より報告が行われ、承認された。本定例会議以後、この報告内容をもとに会計監査が行われ、その結果は次回定例会議にて報告される予定となる。

#### 4) 執行部体制について

浅島代表より運営委員会の構成員について案が提出され、承認された。運営委員は浅島代表に加え入江氏、長濱氏、福田氏、宮島氏の計 5 名となり、副代表には長濱氏、福田氏

が就任した。また福田氏の副代表就任を受け、福田氏の就任中であった会計監査委員については、石浦章一氏（日本生化学会）に後任を依頼することが承認された。

現行の規約に運営委員の任期等について明記する改定案が出され、承認された。

#### 5) 生物科学学会連合平成 23 年度予算案について

会議では平成 24 年度予算案原案が用意されたが、本年度は 23 年度の予算案を検討していくことが確認された。平成 23 年度の予算案については、本会議での審議内容を加味して会議後修正案を作成しさらに検討することとなった。

本連合の今後の活動と関連して、会員学会より集めている運営費の金額を現在の 3 万円より引き上げる可能性について議論がなされた。主な意見は以下の通り。

- ・生物科学分野を活性化させる仕組みを作っていくために、ゆくゆくは資金面の強化が必要となるのではないか。
- ・具体的な活動計画の詳細が提示されてからでないと各学会での検討が難しい。
- ・今後本連合からの支出として検討される可能性のある内容としては、現状では個別の取り組みへの援助等がまず考えられる。それらは経常的ではなく単発的な支出となることが予想されるので、当面は本連合の繰越金で対応してはどうか。

#### 6) 公益法人の最近の動向について

浅島代表より公益法人関連の話題提供がなされた。公益認定等ガイドラインが変更されて学術団体に対し配慮されたものとなり、学術団体が一般的に行っている主な事業について公益事業とみなされる可能性が上がった。

本件に関連して、公益法人への移行準備を進めている特例民法法人（旧社団法人）の会員学会を中心に情報交換がなされた。

税制優遇という点以外に法人化のメリット／デメリットとして挙げられた内容は以下の通り。

- ・公の法人となることで社会的信用が得られ、研究者の行動が国民に理解されやすくなることも期待できる。
- ・任意団体では、学会代表者個人にかかる会計上の責任負担が大きくなる例もある。

また公益法人になることで懸念される会計処理に関しては具体的に以下の情報が寄せられた。

- ・例えば収入・支出に関して公益性、非公益性で分類する必要が出てくる。業務の切り分けが難しい事務実務担当者の人件費案分などにはやや手間がかかる。
- ・公認会計士等を入れる費用がかかる。

#### 7) 日本学術会議の会員の改選について

浅島代表より、日本学術会議の会員・連携会員の候補者の情報提供について、各学会へ協力依頼がなされた。

#### 8) ポスドク問題について

谷口氏より、日本学術会議基礎医学委員会・基礎生物学委員会が実施予定の Web アンケート「博士研究員（ポスドク）等の実態に関するアンケート調査（仮）」について紹介と協力依頼がなされた。浅島代表より、同趣旨のアンケートは（社）国立大学協会でも行われたが大学では把握しきれない部分がある点や、日本学術会議では予算削減が進んでおり本件には予算が付かない点などの補足説明がなされた。

議論の中で、博士課程への進学やポスドクの問題については、国から大学に通達が来ており対策や活動が進んでいる大学の例も紹介され、少しずつ動いてはいる状況が報告された。

さしあたり本件に関しては、本連合より 10 万円の援助ならびに周知協力を行うことが承認された。

## 9) 大学や研究所における研究環境とその問題点について

浅島代表より話題提供がなされた。なお天文学や物理学などの分野では大型予算を取得しているが生物科学の分野ではまだ出ていない。小さい予算を長期にわたって希望するところは出ているが、大型施設や大型研究計画予算については提案の中から採択される傾向が多くなっているため、ぜひそちらも出してほしいとのこと。

## 10) 生物科学オリンピックの現状

浅島代表ならびに鳩貝氏より情報提供がなされた。国際生物学オリンピック日本代表の国内選抜「生物チャレンジ」が「日本生物学オリンピック（予選／本選）」と名称を変更した。国際生物学オリンピックの受賞経験を大学入試の AO 入試で採用している大学もあり、そのことも学生を参加へと向かわせる動機付けの一つとなっている。

## 11) 学術誌問題検討委員会の報告

浅島代表より、日本学術会議科学者委員会学術誌問題検討分科会がまとめた提言「学術誌問題の解決に向けて―「包括的学術誌コンソーシアム」の創設―」（2010年8月）の内容が具体的に動こうとしている旨報告された。日本発のジャーナル育成を目指す主旨とのこと。

## 12) IUBS（国際生物学会連合）との関係について

武田氏より IUBS の活動紹介がなされ、今後本連合と IUBS との間で相互の情報提供や本連合会員学会からの人的援助等も将来的な視野に入れた協力関係を築きたいとの申し出があった。以後 IUBS 関係者が本連合の定例会議にオブザーバーとして出席することが承認された。

## 13) 生科連に所属する学会の国際会議への支援について

浅島代表より、日本で国際会議が開催される際個人や個々の学会の負担となっている現状について問題提起がなされた。国際会議を開催する団体への本連合からの資金援助については、個々の国際会議により性質が異なる点や本連合の活動趣旨等を考慮し、行わないこととなった。ただし、資金提供によらない後援団体は可能であるとした。

## 14) 要望提言について

大杉氏より日本学術振興会の最先端研究支援プログラムの採択が遅れている問題について話題提供がなされた。本件に限定せず、広く研究費の決定方法等について本連合より至急要望提言をすべきであるとの意見がなされ、承認された。原案作成を大杉氏に依頼し、本連合運営委員会で検討することとなった。

追記；この件については、化学会等の他の学協会との共同の要望として 2 月 1 日に共同記者会見を行い、つづいて文科省と内閣府に提出された。

## 15) その他

- ・日本学術会議関連の 2 つのシンポジウム案内がなされた。  
日本学術会議物理学委員会主催  
「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関する物理系シンポジウム」  
日本学術会議第二部主催「科学の社会的責任」
- ・次回定例会議は 2011 年 10 月頃に開催予定。

以上